



二子玉川

秋の過ごし方

副校長 家本 咲子

ようやく朝晩が涼しくなり、秋を感じる日も多くなりました。早くも10月、今年度の折り返し地点です。

季節の中で一番好きな季節なのですが、最近の秋はとても短く感じます。前回、7月号では「年々暑くなっていく夏」と書きました。夏の暑さが9月末まで続き、ほんの少し過ごしやすい10月はあっという間に終わり、そして気がつけば冬がそこまで来ている、状況がここ数年続いています。年々短く感じていく秋を心ゆくまで楽しみたいものです。秋になると「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」とよく耳にします。どの「秋」も捨てがたく、心ゆくまで楽しむにはどの「秋」も大事にしたいと欲張りな気分になります。

本校では、10月25日（土）に運動会が行われます。暑さが長引くため、9月中には運動会の練習には入ることができません。涼しくなる10月から練習を初め、日差しが多少弱まり、日中は暖かさを感じる頃に本番を迎えられたら子供たちにとっても最高の運動会になることと思います。運動が苦手でも、外に出るのが億劫でも、みんなが楽しむ、みんなと楽しむことをめざして頑張ります。応援、よろしくお願いします。子供たちが「スポーツの秋」を楽しんでくれると嬉しいです。

私事ですが、先日、シンガポールから来日した高校生と交流する機会がありました。彼らは、お味噌汁やブリの照り焼き、生姜焼き、お寿司、もんじゃ焼きなど、たくさんの日本料理を楽しんだ様子でしたが、香りや食感、風味が身にしみわたると話してくれました。「日本食は素晴らしい」と熱く語るとともに、「いただきます」や「ごちそうさま」といった私たちにとってはごく当たり前の日本語のあいさつを、彼らは心をこめて口にしていました。その姿を見習って、日本にある豊かな食材を「当たり前」にではなく「有り難く」いただく「食欲の秋」にしたいものです。

夏休み明け、国語では読書感想文を書く授業が行われていました。読書感想文は苦手な子も多く「書かなきゃいけないから、読まなきゃいけない」という、本末転倒な様子もあちこちで見られました。子供たちには、本が自分の世界を広げてくれるツールの一つだということを感じてほしいと思っています。人の気持ちの移り変わりや機微、想像力を広げる情景描写、登場人物に言動から得る新たな学びや共感。言葉が織りなす本の世界は、実は私たちの日常にも溢れていて、結局そうした日常が自分たちを成長させてくれると子供たちが気づいた時、「読まなきゃいけない」は「読みたい」に変わるのだと思います。涼しい季節に心を豊かにしてくれる「読書の秋」もおすすすめです。

秋が過ぎれば、寒い冬がやってきます。2ヶ月後には年の瀬、あと半年もすれば、学校は今年度の修了式、そして卒業式を迎えます。ここからの半年間は、自身の生活を具体的に振り返り、自分の行動を改善していく期間にしていけるよう、子供たちに声をかけたいと思っています。2学期のさまざまな経験が子供たちの「良い成長」の助けになるよう、今年度の後半戦が子供たちにとって楽しく豊かなものになるよう、教職員一同、知恵を出し合い行動していきたいと思っています。